

## どう取り組む

### 雇用・産業施策

## 事業を必ずや成就させる

／町長



しもむら かつゆき 議員  
下村 勝幸

### 問

現在、県や国の事業を活用し、町内全域にわたって様々な地域活性化の取り組みが行われている。そうした中の一

つに、振興計画の中にもうたひ込まれているシンボルプロジェクトがある。これについては、本年度、地域雇用創造実現事業が採択となり、町内から新たに五人の方が採用され活動が始まっている。これは今までの事業と違い、産業施策を行いながら雇用を生めるプログラムになっており、この事業は、町の産業施策の未来を左右しかねないほど重要だ。こうした中で、町のこ

の事業に対する位置付け、関わり方はどのようになるのか。また、人的、物的なサポート体制はどう考えているのか。

さらに、ここで見いだされたさまざまな素材や外貨などの資源をどう生かすかが重要であると思うが具体的に、町は今後どのようにしていくつもりなのか。

町が主体になり本気で取り組んだことによって、何か新しい仕組みが生まれ、また、そこに新たな産業基盤ができ、ひとつの雇用の場が生まれるように、それにこそしっかりと軸を置いてやっていただきたいと思うがどうか。

今回のこの実現事業の中に、スポーツ合宿や、体験型の観光誘致のための事業がある。これなどは例えば、事業推進員を北海道へ出張させ、今のパークゴルフ需要を喚起する

### 答

下村正直 町長

ただだけに専門に活動し、営業できる体制が整った。これは、まさに黒潮町の振興計画に沿った内容であり、完全な連携と協働体制があればこそ、文字どおり実現できる事業だと思ふ。だからこそ、こういった外郭団体を束ねコントロールする人材や組織を、行政内部に配置する必要性を感じる。そういった考えはないか。

かねてから色々な取り組みを試みてきたが、今ようやく芽が出てきたところだ。それを地域の産業として、確立するというのが我々に課せられた課題であると常々思っている。そして県の産業振興計画とも相まって、本当にそういったものを一つの形にするチャンスが来たと思っている。産業振興推進総合補助金事業で、保育所の跡施設を加工場に改造し、特産品開発の拠点として今後拡充していく。

今の時代にマッチした天然素材、安全の材料を使った食品群を一つの束にして、黒潮印の認証のもと販売戦略をとっていく。さらにこれから

の三年間は、特産品開発等の集大成として具現化するため。そのためには、漁協や農協等とも具体的な結び付きの中で役割分担もしながら進めていくようにしたい。国、県の事業等を導入しながら、精いっぱい財政の許せる限りやっていきたい。

人的支援については厳しい職員数での対応なので、難しい面もあるが、こういった取り組みに対する実効性のある人事をしていかなければならないので、目下それを検討中である。但し、既存の組織との兼ね合いもありそれらをどのように整理せねばならないか熟考している。しかし、この取り組みについて思い切った人的配置にしなければこの事業は成就しないという思いは同じで、四年後には必ずや事業を引き継いで、花を咲かさねばならないという強い思いがある。そのためにはどんな方法をとってもそれを成果として残すつもりだ。

